万引対策百般　TOKYO立（だ）ち　余話（5）

保護者用冊子作り・重なり合う合意で暴力装置を収めたい

NPO法人　全国万引犯罪防止機構

都会育ち女性が、初めて夫の実家（富山）に行った際の話である。義母から「ひろみちゃん、残ったものはおさめられ」と言われ、女性は残った料理をラップして冷蔵庫に仕舞おうとした。義母は「あら、ひろみちゃん、冷蔵庫じゃなくて、ゴミ箱に捨ててほしいの（笑）」と言われてしまう。女性はポカンとする。富山では、捨てるまたは終わりにすることを納める（似た事例：見納め、仕事納め）という。女性は一定の範囲の中にきちんと入れる収める（似た事例：収納、鞘に収まる）意味だと思ったのだ。二人の文化・方言の違いに驚き、そして、笑いながら重なりあう合意をもって、互いの違いを心の鞘に収めた。

万防機構の普及推進委員では、2010年4月30日からセーフティ教室の万引き防止を中学生や小学生に行ってきた。児童・生徒用の講演では、歌や小芝居やクイズなどを用意して参加型で行う。特に重視しているのは、保護者の一人として、人生の（失敗だらけの）先輩として、万引防止対策という重なりあう社会正義を伝えたいという点である。

セーフティ教室の後に、講師と保護者との懇談会がある。保護者からは「知り合いの息子さんが友達に万引きを誘われている。どう断れば良いか。」「過去にクラスメートの万引きを強要されるイジメに遭ったことがあった」などの辛辣な質問や相談がある。そのために作成されたのが「子どもに、絶対、万引きをさせない！！　保護者ミッション～万引犯罪を自慢げに、武勇伝として語る人間にしてはいけない！～」（以下、保護者用冊子）である。この冊子作りには、警視庁と神奈川県警の生活安全総務課にご示唆をいただいた。現在、この冊子は https://www.jeas.gr.jp/pdf/road/20111112.pdf に保存されている。検索が楽なようにQRコードを付記しておく。

実は、作成時に参考としたのは、2010年9月3日に、ある教育情報サイトの保護者掲示板に、書かれた母親からの相談事だった。要約は以下の通り。

……◇……

子供が万引きをして補導されました。お店からパトカーで警察署へ連れて行かれ、そのことを警察署からの連絡で知りました。とてもショックです。謝罪&支払いに行ったお店でも頭を下げる子供の横で、ただただ涙ながらに謝る事しかできませんでした。子供からのSOS信号を見落としていたのではないかという自責の念に押しつぶされそうです。高学年になり親がいちいち口を出すとうっとうしがるので、少しずつ本人に任せながら見守って来たつもりでしたが…。本人に聞くと、万引きはいけないと言う気持ちが40%、それが欲しいと言う気持ちが60%だったと言いました。実は前日にも同じシリーズを万引きしていたと言う事をお店で告白したそうで、更にショックを受けてしまいました。おそらく、初めての万引きが成功してしまったので、翌日また同じ行為をしたところを補導された、と言う事のようです。子供は警察署で万引きに関するビデオを見たり、作文を書かされたようで、引き取りに行った時は泣きながら出て来ました。子供を信じて少しずつ任せていただけに大変ショックで、今後、子供を信用できるか・・・これからどう対処して行けばよいのか・・・分かりません。つい数時間前に帰宅したばかりで、夫は出張中のため、まだ気持ちが落ち着いていないので長くなってしまいましたが、子供の将来のために親はどう対処すればよいのでしょうか・・・。私の何かが間違っていたのでしょうか・・・。

愛して、大切に、時には厳しく育てて来たつもりでしたが、今までの子育てを全て否定され、「母親失格」の烙印を押されたようで、子供に自信を持って接する事が出来なくなりそうです・・・。わが家の場合はお友達とのゲーム感覚で、やはり1度成功したため回数を重ねてしまったようです。決して真面目タイプではないですが、正義感が強く万引きのような事件だけは起こさないと思い込んでいました。深夜子供の寝顔を見ながら、なぜ?と問い、中学1年の反抗的な態度に対する自分自身の接し方を振り返り、悔やみ、愛しく感じ、そしてどこかでこのような思いにさせられている現実を恨む自分がいます。つらいです。

……◇……

この掲示版には、その後、多くの保護者から「母親失格なんてことはないです」という励まし、「私も同じような経験をしたことが・・・」という重なり合う思いが書き込まれた。その思いを保護者用冊子に託した。

その後、2017年に都内において万引きをして補導された小学生の人員が増加したことを受け、翌2018年、東京万引き防止官民合同会議でも小学生の保護者向けリーフレットを作成し、各小学校を通じて都内の全ての保護者に配布した。作成にはあたっては、保護者用冊子が参考とされた。

万防機構は2019年に一般財団法人日本宝くじ協会の助成をいただき50万部を全国の中一の保護者向けに配布した。監修者として、文化学園大学名誉教授の野口京子先生にお願いした。保護者用冊子にあった「Check家庭の教育をもう一度振り返ってみましょう」が「上手にコミュニケーションをとるための10のヒント」になり、家族の対話と保護者自身の学びを促す内容となった。

2020年は、もれなく全国の中一の保護者に配布できるようにと100万部の配布数を用意した。政策・広報委員会委員長の菊間千乃理事が細部にわたり何回も手直しされ、見やすいものとなった。

なお、学校での保護者向けの懇談会の最後にはかならず「独りで悩まず、人生の先輩方や地域の児童相談センターや教育相談センター、警察の少年課等に相談してください。子を産んだから親になるのではありません。このような経験を通して親になっていくのです」というメッセージを保護者に伝え、心に収めてもらうようにしている。

だが、表層だけの理解では、自らの行為にはつながらない。だから私はそのきっかけとなった初期の精神を説明するように心掛けている。今回はその事例を社会学者マックス・ヴェーバー（1864年～1920年）の代表作『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で学びたいと思う。初期の精神を失う怖さを知ってもらうために。

プロテスタントは、どれだけ寄進したかによって、天国に行けるかどうかが決まるカトリックの考え方を、教会の腐食だと批判した。プロテスタントは、職業を天職と捉え、神様から与えられた使命だと捉え、一生懸命働いた。働くとお金が貯まる。たくさんお金が貯まると、パーっと使いところだが、プロテスタントはそのお金を使って「より天職を全う」しなければと考え、貯まったお金を新たな設備投資に回し、生産量を増やしていった。利潤の獲得も、神の意志にかなうと考え正当化していった。資本の発達は貧富の差を広げていく。ヨーロッパにおいて宗教的な弾圧を受け、そして経済的な成功を夢見た一部のプロテスタント（貧しい労働者達）はアメリカに渡った。マックス・ウェーバーはアメリカにプロテスタントが渡る際に、宗教的な背景が抜け落ちて、資本主義的精神だけ生き残ったと説く。その理由は、プロテスタントは、はじめこそ宗教的な背景から勤勉に働いたが、そのような社会が出来上がると、その勤勉さのみが子どもへと受け継がれていったからだ、という。

いったん資本主義体制が成立してしまった以上、個々人はただ資本主義の制度のうちへと参加するにすぎず、プロテスタンティズムの倫理を身につけておく必要はない。その意味で、プロテスタンティズムの精神が今日の資本主義を支えているわけではない。

精神なき発展は、やがて世界大戦によって熱狂的な紐帯を生み出し、ナショナリズムが聖化され、国家は正当化された巨大な暴力装置になっていった。マックス・ウェーバーが提起したこの【暴力装置】という新たな難題に、「別個の人々をあたかも単一の人格であるかのように見なしてはならない」という思いで立ち向かったのは、政治学者ジョン・ロールズである。

ジョン・ロールズは1943年に学士号を取得した後、アメリカ陸軍に兵士として入隊。第二次世界大戦中は歩兵としてニューギニア、フィリピンを転戦、降伏後の日本を占領軍の一員として訪れて、広島の原爆投下の惨状を目の当たりにする。その体験が後に「公正としての正義　再説」を発表することになる。その著書の中でジョン・ロールズは「多元的社会における社会正義の追求〈平等な自由原理、不利な人々の最大利益、機会均等原理〉は、個人だけではなく諸集団レベルでもコミュニケーション的行為を繰り返して、重なりあう合意」を形成する必要がある。そして、それによって構築される様々な合意の重層的・複合的ネットワークこそが、多元的な社会正義の総体を構成する。同時に、そうした文化や伝統を踏まえた市民による社会正義のネットワークそのものが、新しい文化的価値を創造する源泉としても機能する』と記した。

万防機構のパンフレットにはSDGs（持続可能な17のグローバル目標／誰一人取り残さない）のロゴがある。工業会日本万引防止システム協会（JEAS）のパンフレットにもSDGsロゴ入りの第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コングレス※）のシンボルマークがある。万引問題で「誰一人取り残さない／共に生きる」社会を実現することが両団体のミッションである。

現在、JEASは工業会として、別個の市民目線で「防犯システムが安全で個人情報保護を遵守している」と認識いただけるよう認定個人情報保護団体を目指し尽力している。そのことが関係者の重なり合う合意となるために、初期の精神を見失わないように、どこかのタイミングで、再犯防止のためのADR（裁判外紛争解決手続）基礎セミナーまたは修復的司法に関するセミナーを実施しなければならない。私はそう考え、思いを静かに鞘に収めた。

※新型コロナウィルスのために延期になっていた第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コングレス）は、2021年3月7日（日）～12日（金）に開催されます。

小・中学生を対象にセーフティ教室を実施

保護者との懇談会で質問や相談に対応

全国万引防止機構（通称：マンボウ）
万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人
文：事務局（稲本義範）

推奨
顔認証システム
工業会
日本万引防止システム協会
JEAS
カメラ画像安全利用推進委員会
https://www.jeas.gr.jp

KYOTO CONGRESS 2020